

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報

NO.7

発行 千144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL.03-3732-4481

東京実業高校同窓会編集委員会

「会長挨拶」

同窓会会長 第39期卒 黒田 芳彦



同窓生の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年阪神大震災に始まり、オウム地下鉄サリン事件、伊豆群発地震等、暗いニュースが相次ぎました。そんな中で東実同窓生の皆様におかれましては、昨年の新年会にて、阪神大震災に多大なる義援金をいただき、誠にありがとうございました。さっそく読売「光と愛の事業団」を通じて寄付致しました。

また、スポーツを通してスカットすることもありました。我が同窓生の財前君のイタリアのサッカーチーム、セリエAでの活躍、オリックスの若手イチロー選手の爽やかな大活躍、アメリカ大リーグ入りに13勝をあげた野茂選手と、大変感激致しました。

振り返れば私の会長職も早1年半を過ぎ、2回目の新

年会を迎えることが出来ました。この1年は、副会長はじめ常任幹事の皆様に助けられ、何とか無事に乗り切ることが出来ました。各行事の担当委員会を作り、各委員長の方々には大変な時間と労力を発揮いただきました。誠に有意義な行事を遂行することが出来ましたことを同窓会諸兄にご報告させていただきます。

さて、学校に関しましては生徒数の減少という時期におかれてもますますの健全経営、質の向上を目指していると拝見致しております。我が同窓会におきましても本年は各行事に同窓生参加の増大を第一に考え、幹事の方々と力を合わせ「ふれあいと語らいの同窓会」をスローガンにかけ運営致したいと思っております。どうか、皆様のご支援をよろしくお願い致します。



久方ぶりの学生生活 — つれづれなるままに感じた事 —

・・・1995年8月末日記

理事長 上野 雅子



今年の夏は当初の冷夏という予想に反して、とても暑い夏となり、毎日毎日涼風の恋しい熱帯夜が続きました。

六月半ばより東実にやって来ていた交換留学生達も七月末に無事帰国の途につき、学校関係者一同、ほっと一息ついて八月からが夏休み本番となった次第です。

日頃、同窓生諸先輩の方々の御活躍ぶりを見聞きし、幾つになっても好奇心旺盛で、いろいろな事に挑戦していらっしゃる姿に、私も感化されまして、かねてから勉強してみたいと思っていた学問に今年こそチャレンジしようと、この夏休みは一週間程、大学の夏期スクーリングに参加し、念願の勉強を教わる事が出来ました。この暑いさ中、北は北海道から、南は沖縄までの熱心な受講者で、5時間程の勉強時間が本当に短く感じられる程でした。学問の方は未知の部門でしたから、「なる程そういう事なのか」と知らない事を知る喜びを心から感じ、楽しみましたが、同時に、人間というものはいかに多くの事を知らないままに一生を終えてしまう事かと思う思い知った次第です。生れた国、育った地域、家庭、環境、そんな中で知る事は本当に限られた物でしかあり

ません。自分の周りには常に自分と同じような生活で、同じような暮らしをしている人達がいるわけです。知識も又、限られた範囲でしか得られないという事になってしまうでしょう。いろいろな事にチャレンジし勉強をしていきますと益々自分の無知に気がつき呆然としてしまいますが、そんな時に助けになるのが人と人の結びつきだろうと思います。すばらしい人々との出会いは、その方々から多くの事柄を学ぶことが出来ますし、知らない世界で頑張っている方々の話は、聞いているだけで心豊かになれるものです。現在同窓会の集まりにいらっしゃる方は、だいたい決った方々が多いのですが、若い人達もどんどんいらして、諸先輩の話を聞いて、大きくなってほしいとつくづく思います。暑い中での学生生活は、やりたかった学問の知識は勿論貴重なものでしたが、人間不信のこの世の中で「すばらしい人間たち」を知った事が、一番の収穫だった気がします。

旅の出会い

学校長 上野 毅



ここはスペインのバルセロナ。8月1日夜9時40分空港着。ツアーでないので待ち受ける人もなく飛行場も閑散としてさみしい。入国書類も必要なく、入国審査も何もなく、まるで国内便が到着した時の様。私なんか一度空港の外へ出て、どうも納得できなくて、引き返して又空港の係員に聞きに行った位でした。さて下調べしていた様に、空港の前の長さ100mの動く歩道で駐車場をひとまたぎした所に国鉄の駅があるはずだが、薄暗い照明の下に人間が2~3人ばらばらと動く歩道に乗っているだけで薄気味悪い。国鉄の駅に着いたら、なんと発車5分前の最終10時14分発市内行と分かり一安心。この多少不安げなスタートが、母をつれてのスペインとりわけバルセロナを中心としたカタルーニャ地方の旅行の幕開けでした。母は年寄り(77才)なので足腰がしっかりしているうちに行きたい所へ可能な限り、つれて行ってあげたいと思っていたら、スペインへ行きたいとのたもった。

バルセロナにはガウディの建物がいっぱい。昔建築を勉強した者にとっては一見の価値がある。専門的な事は次にゆずるとして人との出会いについて少し書きたい。4日目、パラドールと呼ぶ国営ホテルに泊まりに行く時、北国方面行きバス発着場へ行った。ちなみにこのパラドール、9世紀につくられた、もとカルドナ侯爵家の城を外は昔のまま、中を近代的にしたホテルであり、それはそれはすばらしいものでした。

話はバス停にもどすが1人の大学生が我々に近寄ってきて、「実は2人組の置き引きにあって、パスポート、搭乗券、現金が入ったバックごと盗まれたので日本に帰るまでの滞在費を少し貸してほしい」という御願。手持ちの5000ペセタをその真面目そうな大学6年生の医学生に貸しました。同じ時期に同じ場所で出会ったというこの縁です。いわば旅の同窓生です。私はこの大学生に正直さ見たので思いやりを持って知らない者にもお金を貸す事が出来たのです。昔のスペインはフランコ総統時代、スリ等軽微な犯罪は、殺人等と同じ位重い刑でしたが民主化された現在は軽い刑になったので現在の方がスリ、カッパライが随分増えたとスペイン人は言っていました。パリでも目の前をカッパライが逃げた直後を警察官がおいかけて行くのに出会いました。どうも日本の外の

国では貧富の差が大きいためか、治安が悪くなっている様な気がします。ところが最近の日本では考えられなかった恐ろしい事件が頻発し、人々の不安をかきたてました。世の中、何が本当で何が嘘なのか、さっぱり分かりません。誰が正気で、何が正気の仮面をかぶった狂気な

のか。何かが大きく狂っている。外国のスリ、カップライと日本のそれはちょっと違う。いずれにしても自分の身は自分で守る、ということ。旅の出会いの話がちがった方へ行ってしまった事をお詫びして私の話を終わります。

「同窓会々報」

第17期卒 顧問 村松 演代



同窓会会報の七号を発行することは、会報の発行を決め初版を出して七年目を迎えたこととなります。同窓会報を発行することになった経緯は、亡くなった井上校長がお元気な頃、同窓会の資金源となっている、毎年度の卒業生から、同窓会入会金として、(当時三千元)同窓会に頂いておりましたが、三千元では同窓会の年次行事を賚えないのと、同窓会を活発に運営する事が困難になってきましたので、一万円に値上を上げて頂きたいと井上校長に折衝しました。井上校長も同窓会の窮状をお察し下さいまして、一遍に一万円に値上げするのは抵抗があるから、五千元、七千元、一万円の三段階で、三年後にそうなるようにして貰えないか、とご相談があり、同窓会もそれに則って計画を建てる事にしました。

その会費値上げの折衝の中に、井上校長から条件として同窓会報を年一回、毎年一〜二月頃3年生が卒業する前に、発行して貰いたい旨のお申し出がありました。同窓会が存在する以上、同窓会報の発行は以前より同窓会としての懸案になっていましたが、五年毎に同窓会名簿を発行するだけで手一杯で、会報の発行は断念していましたが、資金的に可能であれば、ぜひ発行したいと幹事一同の総意で、同窓会報の発行に踏み切りました。

六号までは印刷その他に経験と知識の深い、二十二期の井上實さんに編集委員長になって戴き、毎年一月の末までには発行して参りましたが、第四代目同窓会、黒田芳彦会長さんから、今後の東実の卒業生の数の減少を予想し、予算の削減を図り頁数を多少減らし、同窓会報として卒業生に学校の現況を知らせ、且つ同窓生の懇親を深められるような情報を提供するように、四十二期の白田佳彦さんが編集委員長になり編集委員の方々の努力によって、この七号が発行されたことと思います。同窓生の暖かい思いやりで、今後もこの会報がより良い会報になりますよう、卒業生一同のご指導を御願い致します。

楽しい室内空間作りのお手伝い

インテリア 遠藤商店

遠藤 孝一

22期 商業科

東京都大田区久が原3-34-12

TEL (03)3752-3027 FAX (03)3752-3359

- 冷暖房設備・電気設備 -

有限会社 シタマ設備

舌間 寛佳

41期 機械科

横浜市港南区丸山台3丁目30番6号

TEL (045)845-7355 FAX (045)845-2060

日本溶接協会 WES8103 級第2865

有限会社 三和製罐

代表取締役 安田 正和

昭40・M卒

東京都大田区羽田6-13-4

TEL (03)3754-1896 FAX (03)3743-1897

代表取締役 加藤 憲治 (昭41・M卒)

ビル・メンテナンス
東南総業株式会社

〒230 横浜市鶴見区生麦5-8-8

TEL (045) 501-8996

FAX (045) 504-4588

学校近況報告

◇◇◇◇◇ 第70期卒業生巣立つ ◇◇◇◇◇

平成6年度の卒業式が3月3日(金)に行われた。機械科197名・電気科98名・商業科268名・普通科130名の合計693名が晴れの卒業証書を手にした。

それぞれの進路としては、就職255名・専門学校252名・大学42名・家業その他144名である。バブル崩壊による経済不況の波が、高校生求職者にも押し寄せた年であったが、希望者全員進路を決めることができたこれも、多数の同窓生による力添えによるものと感謝しております。卒業生諸君の活躍を期待したい。

◇◇◇◇◇ 559名の新入生を迎える ◇◇◇◇◇

平成7年度の入学式が4月8日(土)に行われた。今年度は、機械科191名・電気科83名・商業科186名・普通科99名の合計559名の新入生を迎えた。入学式で上野毅学校長は、「これからの高校生活3年間は今までの義務教育と違って、自からの目標を持ち、その達成のために努力しなければならない。本校の校訓である『不撓不屈』の精神をしっかりと活かし、学校生活を続けてほしい」と式辞を述べた。そして式次第は、新入生代表の原田雄介君の「新入生宣誓」で締められた。

入学後間もない5月12日(金)より、新入生は研修合宿旅行に出かけた。同窓生諸君にも思い出深い、山梨県富士緑の休暇村において、集団行動訓練や友達・先生とのふれあいを深める合宿であった。

◇◇◇◇◇ 交換留学生来日 ◇◇◇◇◇

6月17日(土)アメリカの姉妹校より、男子生徒3名・女子生徒5名と、引率の先生1名が来日した。留学生は、東実の授業を参観する他、京都・奈良・日光等を

副校長 嘉戸直民



観光したり、国立劇場での歌舞伎教室を鑑賞するなど日本の伝統的な文化を体験した。この交換留学制度も、昭和42年に第1回交換留学生を迎えて以来、今までに来日したポルダーからの留学生は100名を数え、東実から訪米した生徒数も96名に至っている。多数の生徒に夢と感動を与えて来たこの交換留学制度も、21世紀を迎えて、より充実した国際交流となるよう願う。

◇◇◇◇◇ 体育祭と東実祭 ◇◇◇◇◇

9月30日(土)品川大井陸上競技場において、平成7年度の体育祭が行われた。各競技は色別対抗で争われ、各種目終了のたびに総合得点の順位が入れ替わるという白熱戦が展開された。団体競演の組立体操には、スタンド席いっぱいの観客から大きな拍手を受けた。また応援の優勝チームには、同窓会より会長杯が贈られ、体育祭が盛況裏に終わった。

今年の東実祭は11月3日(金)文化の日、記念式典で幕が開かれた。式典では永年勤続の先生方が表彰された(勤続30年-尾藤 勇先生・大牟田清一先生・菊池克己先生、勤続20年-北井邦寿先生、勤続10年-小林正文先生・村山雅博さん・谷口美智子さん)。2日目からは各団体の準備も整い、一般に公開された。展示部門ではワングル、サイクリングの各部が例年通りの健闘ぶりを示し、来場者に評価を得ていた。

今年度から東実祭の日程が、従来の11月1日~3日ではなく、11月の第1金曜日からの3日間となった。

今年も3日に来校された同窓生諸氏にはおわび申し上げます。毎年「同窓会の部屋」もあり、皆さんがゆっくりくつろぎますので、お出かけ下さい。

印刷物なら、何でもご相談下さい

株式会社 佐々木印刷所

代表取締役 佐々木 努
昭17・M卒

東京都大田区多摩川1-18-5

TEL (03)3758-0710 FAX (03)3758-2821

- 建築一般 -

光栄建設 (トモ美容室・友田材木)

味五 友田 美幸 (旧姓: 本庄)
昭41・C卒

鶴見区梶山1-4-13

TEL (045)572-8171

学校行事 - この1年間 -

平成7年4月7日	始業式 (第1学期)	
8日	入学式 平成7年度入学	
5月12日	1年生研修合宿旅行	4泊5日
↓	2年生 社会見学・スポーツ大会他	
16日	3年生 " "	" "
6月10日	開校記念日 (創立73年目)	
7月5日	期末試験	8日迄
9日	電気科ダム見学	12日迄
10日	普通科1・2年学習合宿	19日迄
20日	始業式 夏休み	8月31日迄
24日	求人票閲覧	29日迄
8月21日	"	31日迄
21日	普通科学習合宿	31日迄
9月1日	始業式 (第2学期)	
30日	体育祭 (大井競技場)	
10月18日	高校入試説明会	20日迄

11月3日	東実祭 (11月第1金土日)	5日迄
29日	期末試験 (2年生)	12月2日迄
12月4日	" (1・3年生)	7日迄
3日	2年生修学旅行	9日迄
11日	普通科冬期講習会	21日迄
22日	終業式 冬休み	1月7日迄
平成8年1月8日	始業式 (第3学期)	
23日	推薦入学試験 翌日発表 手続	2日
25日	卒業試験	29日迄
2月15日	一般入学試験 翌々日発表手続	20日
3月3日	卒業式	
5日	学年末試験	8日迄
9日	スキー教室	14日迄
11日	普通科春期講習会	19日迄
21日	終業式 春休み	4月5日迄

◆主な行事のみで、その他資格試験の実施等行います。

商業科近況報告

70有余年の伝統を持つ商業科も、21世紀を迎えるにあたり、現在大きな変革の過程にあります。

現在商業科には男子生徒700名が在籍し、昔からの簿記や珠算の習得に励むと共に、授業時に生徒全員が一斉に操作出来るように設置した50台のパーソナルコンピュータを使った情報処理実習や、ワープロ専用機を使ったワープロ実習を積極的にこなし、情報社会の波に乗り遅れないように指導しています。また来年度の3年生からは新聞等でも話題になっている「家庭科」や、自主的な力を身につけるため「課題研究」が新たな必修教科として導入されます。

この二つの新しい教科については教員の中にさえも戸惑いがありますが、21世紀に中心となって活躍する生徒たちにとっては、身につけておかなければならない知識、技能だと思えます。

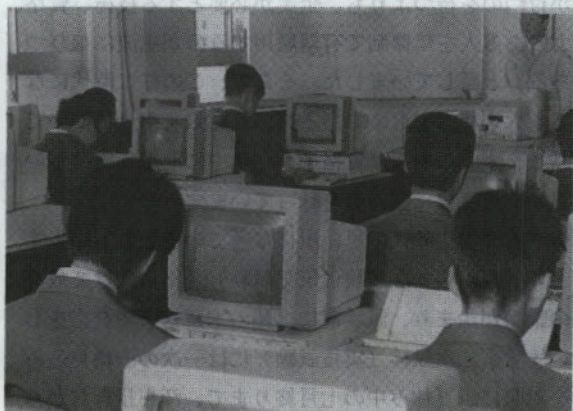
これら以外にも、日々激動する社会情勢や経済情勢に合わせ、独自のカリキュラムを編成し、実社会に役立つスペシャリストの育成こそが今後の商業科の使命だと考え、教員一同努力しておりますが、すでに卒業し実社会

商業科長 小畑 雅一



で活躍されている皆様におかれましても、「これからの商業活動においてこんな知識が必要ではないか」と思われることや、「商業科の生徒としてこんなことを身に付けたほうがいいのではないか」といったことがございましたらば、ぜひ母校までご連絡ください。

今後も社会のニーズに合った優秀な人材を育てていくためにも、ぜひともご協力をお願い致します。



機械科近況報告

現在、本校の機械科は1学年4クラス・2学年5クラス・3学年4クラスの600余名の生徒が在籍しており、毎日、勉学・クラブ活動等と意欲的に活動している。

さて、近年の社会情勢に於いては、ライセンス、(資格)の時代と言われており、数多くの種類の資格審査が行われています。本校では在学中に取得出来るライセンスはなるべく多く取得する様に指導し、生徒たちも非常に多くの関心を示し、受験希望者も年々増加している現状である。現在、学校内外で取得出来る資格の代表的なものは次の通りである。

校内：製図検定・計算技術検定・ガス溶接・アーク溶接
 ・特定化学物質作業主任者・有機溶剤作業主任者
 ・1トン未満移動式クレーン取扱・玉掛け等取扱
 校外：産業用ロボット教示等取扱・低圧電気取扱・小型ボイラー取扱(その他有り)

機械科長 千田 一雄



各資格試験(技能講習)は、2年生から受験させ、7月と12月の年2回(定期試験終了後)に分けて行っており、昨年までは機械・電気科の生徒を対象として実施してきましたが、近年に至っては、他学科(商業・普通)の生徒からの受験希望者も増えている現状である。しかし、気になるのは取得率の問題であると思われるが、全ての技能講習で80%以上の合格率を残しており、これも生徒たちのライセンスに対する意識の高さを物語るものであると思われる。また、これからの機械科の展望として考えれば、時代に呼応し、「温故知新」を忘れずに我校の発展を考えて行かなければならないと言うことを付け加えておきたい。

電気科近況報告

最近、円高やバブルの破壊等が原因で、時代が大きく変わってきていますが、皆さんはこの時代の流れをどのように考えていますか。この夏に、転職雑誌「ケイコとマナブ」の編集長である木下雅人さんの講演会を聞く機会を得ました。「今までの日本企業は、白紙の人間に終身雇用、年功序列、組合の三つが原則で色を付けるのが企業であった。つまり、「人」中心主義で、20代、30代、40代のそれぞれの後半に昇進、昇格があった。しかし、これからの日本企業は終身雇用よりも、技術知識、能力、(交渉力、分析力、相手の気持ちの理解)、行動様式の三原則を大切にせる有期雇用が中心となる。これからは、人が育つのを待つよりも、企業が必要とする技術、資格、能力のある人を年俸制で有期雇用するのが主流になりつつある」と話していました。そこで、この様な時代になっても大切な国家資格である第二種電気工事士についてお話しします。この国家資格を、在学中に取得して欲しいと思い、放課後に講習会を行っています。

皆さんの学生時代の思い出になっているとおもいます。

毎年一月から一次試験(筆記試験)合格に向けて放課後の講習が始まり、試験前には鶴の木研修所で合宿をしています。二次試験(実技試験)には一次の合格見込み者を対象に、夏休み中の七月終りまで、汗を掻きながらペンチ、ナイフを使って電線接続等の実技講習していま

電気科長 横幕 正一



す。中間・期末試験のため休みもありますが、半年間継続しています。この講習会も十五年以上にもなりますが、いろいろと変化しながら今の講習会になっています。ここに、最近の六年間の結果を表にしました。ところで、本校の電気科を卒業すると第二種電気工事士の一次試験の免除校になっていて、二次試験(実技)だけを受験し、合格できれば取得できます。この事は卒業生の皆様はよくご存じだと思います。ですから、最近この二次試験(実技)講習会に参加する卒業生も多くなりました。最後に、この講習会に大変努力していただいた依田敏先生が今年の初めにお亡くなりになりました。心から哀悼の意を表し、報告いたします。

第二種電気工事士合格者一覧表

年度	一次合格	二次受験者	合格者
1	27人	38人	23人
2	32	37	26
3	27	36	12
4	24	40	35
5	26	25	13
6	29	40	26

普通科近況報告

普通科の生徒から、ここ二年連続して横浜国立大学、横浜市立大学の国公立への合格者がでている。また、私立大学への合格率もあがっている。先生方の努力の結果とも思われる。学習合宿なり、定期的な夏期、冬期、春期なりの講習会、あるいは、平日の補習など。さまざまな工夫を凝らし、「よし！補習しよう」という積極的な態度もうかがわれる。しかし、先生方の努力だけでは、大学の合格はおぼつかない。もっとも大切なのは、生徒の能力であり、「絶対に合格を勝ちとろう」という生徒の意志の強さである。あとは意志の持続に必要なスタミナだけである。

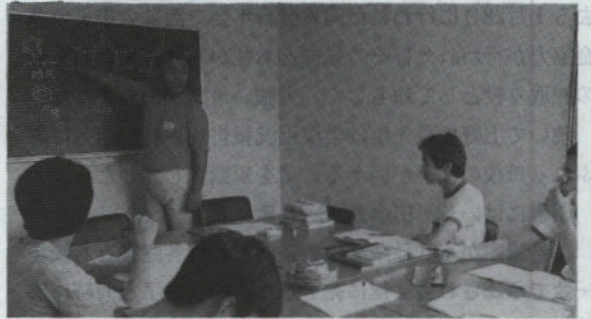
横浜市立大学に合格した生徒は、一、二年生では、特に目立つということはなかったが、二年三学期あたりから学習態度に変化が見え始めた。集中力が発揮されだした。三年生になると、授業が終わり、予備校に通学するまでの時間、図書室で過ごすことが多くなった。三年間を通して精神的な過程を見つめると、最初は大学へ必ず進学しようという意志を強く持ち、その意志を持続させ



普通科長 北井 邦寿

ながら、授業の予習、復習を欠かすことがなかった。

そして後半には、不安と闘いながら、より自己学習を進展させていった。厳しい状況の中で、進学の意志を持ち続け、徐々に高めていった。彼は、精神的に十分なスタミナを蓄えていたことがわかる。進学は、教師と生徒の根気によって成就することも、一点あげられる。だから、普通科の教師も生徒も最後まで進学をあきらめない。



経感 - 東実 に半世紀

教員 (第23期卒) 小島 浩



私は明年平成8年3月をもって定年を迎えます。私が憧れの東京実業学校に入学したのは戦争真っ直中の昭和18年4月、12歳の時。その後昭和29年から母校東実で教鞭をとりまして実に(講師時代も通算しますと)51年間在籍したことになります。私の人生は東実と共にあったことができると思います。この間、思い出に残ることをいくつか書きとめさせていただきたいと存じます。

ちょうど今年には戦後50年のふしめの年といわれ、戦争に対する反省が世界的に問われています。日本は、いま、正に、平和瀾熟の時代を謳歌しているやにみえますが、私などあの戦争の真っ直中を経験し、食うや食わずのひもじさ、恐怖と隣り合わせの体験をした年代から考えますとき、戦争を知らない世代が過半数をこえてしまった現在、とても不安に思えたりするわけです。

中学2～3年(13～14歳)で勤労働員され、授業そっちのけで軍需工場で働かされ、東京大空襲では母校東実が丸焼けになり、翌朝その焼け跡に茫然とたたずんでい

たこと。それから、ちょうど終戦の8月15日、工場の出張で、高崎駅頭で終戦の混乱に遭遇し、興奮する群衆を将校が抜刀して整理していたことなど、今も忘れない恐怖の体験でした。戦後もまだ東実の苦難はつづきます。

勉強する校舎がないのです。そこで新潟鉄工所の焼け残った建物を借り受け勉強しました。窓ガラスもない、雨でも降れば天井からずくがたれるので傘をさしての授業、冬は何枚も重ね着をして寒さを防ぐという惨憺たる状態でしたが、しかしそうした中でも、みんなで、勉強ができたということはとてもうれしく、今思い出してみましても、そうした自分達がいとしく思えてなりません。このあと、何度も何度も校舎を建て替え、究極の学校が現在の建物で、亡き第6代校長上野幸一先生が、関東大震災、東京大空襲という二度の苦難にもくじけず、雄々しく立ち上がった東実の姿を不死鳥(フェニックス)の姿としてとらえ、本校のマスコットにされた意味がとてもよく判ります。この間、本校も商業科に加え、機械科、電気科、普通科が設置され、また女子商業科もあった時期もありましたが、今は男子校として、押しも押されもしない総合学園高校として発展してきたことはご同慶に絶えません。

ともあれ、私がかくも長きにわたり大過なく勤務させていただけましたことを各方面に厚く感謝申し上げます。

東京実業高等学校同窓会 平成七年度定期総会並びに懇親会開催

副会長 第35期卒 川名 重士



本年度は6月4日(日)、午後2時35分より母校小ホールにて実施した。

東京実業高等学校同窓会の年間行事の日程上総会実施日は梅雨の季節にあたり、本年もあいにくの小雨にもかかわらず、会員そして来賓の方々にご来席を賜り合わせて65名の出席がありました。

定刻より5分遅れて開会した。黒田同窓会長の挨拶に去る1月28日に行われた同窓会新年会で阪神大震災の募金協力が行われた旨その報告とお礼があり、また同窓会の舵取り役として頼もしく、力強い言葉がありました。

続いて上野校長先生は学校近況報告をされ、活気にあふれる母校の様子が伺える言葉を頂戴致しました。

議事にはいり黒田会長が議長席に着く。

1号議案から6号議案の審議が行われ各議案とも満場一致で承認され盛会裡に完了した。総会終了と同時に隣接する大ホールで記念撮影をした。約10分程休憩後、懇親会の準備ができて戸田常任幹事の司会で開催した。

黒田会長の挨拶で始まり、上野雅子理事長先生、山本晴之介東京高校同窓会長はじめ来賓の方々より御挨拶を頂戴致しました。私の印象に残ったのは上野理事長先生の挨拶の中に元教員で宮本章二郎先生の紹介がありました。宮本先生は80才を過ぎた御高齢です。理事長先生の御祖父で故上野熊蔵校長先生の時代からの先生です。

先生は、とても元気で本日御出席して下さいました。

他にまだまだ懐かしい先生方も出席してくださり、母校特有の自慢のできる同窓会ではないでしょうか。今回出席された会員は16期から42期の方々です。出席者の呼びかけとして事務局より会員にハガキで案内していただき、また常任幹事全員で電話等で会員の方々に出席の依頼を致しました。今回は特に出席して思いました。(着眼大局、着手小局)私の励みの言葉です。総会、懇親会で多くの会員(同窓生)に会い、知るのに良い機会だと感じています。同窓会の会員の輪が徐々に広がり大きな輪にしていきましょう。終わりに会場の設営とあとかたづけに携われた教職員の方々とバスケット部員の生徒さん御協力ありがとうございました。



平成七年度同窓会事業予定

平成7年4月8日	平成7年度入学式(正副会長) 於: 体育館	30日	体育祭(有志・代表者参加)	於: 大井緑球場
中旬	総会準備会(総会準備打合せ) 於: 会議室	10月中旬	編集会議(会報第7号)	於: 会議室
中旬	旅行準備会(本年度の計画) 於: 外部	11月3~5日	東実祭(同窓会の部屋設営)	於: 母校
下旬	常任幹事会(本年度事業計画) 於: 会議室	上旬	編集会議(会報第7号)	於: 会議室
5月中旬	編集会議(会報第7号) 於: 会議室	"	新年会準備会	於: 会議室
下旬	常任幹事会(総会確認打合せ) 於: 会議室	12月中旬	常任幹事会(新年会打合せ)	於: 会議室
6月4日	平成7年度定期総会 於: 小ホール	1月8日	新年顔合わせ(会長)	於: 会議室
中旬	編集会議(会報第7号) 於: 会議室	中旬	編集会議(会報第7号)	於: 会議室
7月上旬	編集会議(会報第7号) 於: 会議室	下旬	昼食懇談会(正副会長と新幹事)	於: 会議室
中旬	常任幹事会(懇親旅行打合せ) 於: 会議室	27日	有志新年会	於: 未定
8月下旬	常任幹事会(旅行最終打合せ) 於: 会議室	2月中旬	常任幹事会(翌年年度行事)	於: 会議室
9月2・3日	第13回懇親旅行(赤尾ホテル) 於: 稲取	3月3日	平成7年度卒業式(正副会長)	於: 体育館
下旬	編集会議(会報第7号) 於: 会議室		◇◇総務会は適宜開催する予定◇◇	

平成七年度収支予算書

収入の部				支出の部			
科目	平成6年度決算	平成6年度予算	備考	科目	平成6年度決算	平成7年度予算	備考
前年度繰越金	1,133,685	484,946	前年度より	事務消耗品	235,047	200,000	封筒・文具類他
終身会費	6,920,000	5,400,000	新卒業生他	通信費	435,775	430,000	ハガキ・切手等
寄付金	250,000	200,000	事業寄付	印刷費	129,780	200,000	各種行事案内状
名簿販売代金	3,000	3,000		会議費	186,017	250,000	準備・幹事会等
広告料	134,000	100,000	会報広告	慶弔費	431,229	450,000	卒業生角筒他
総会会費	285,000	0		総会費	593,074	100,000	総会後の懇親会
懇親旅行会費	740,000	0		懇親旅行費	671,540	50,000	旅行費補助
新年会会費	950,000	0		新年会費	1,012,498	50,000	新年会補助
受取利息	1,406	2,000	銀行利子	会報発行費	1,238,745	500,000	第7号発行
積立金	500,000	0	周年行事他	名簿発行費	0	0	平成9年発行予定
雑収入	1,560	1,054		助成金	500,000	500,000	母校へ助成
				積立金	5,000,000	3,000,000	周年行事・名簿等
				支払手数料	0	0	振込手数料他
				予備費	484,946	461,000	次年度へ繰越
合計	10,918,651	6,191,000		合計	1,918,651	6,191,000	

民間車検場

東京陸運局長指定第2-637号

各メーカー・新車・中古車・販売・車検・钣金・塗装
 ☆事故についてのご相談承ります☆

モリ自動車

〒230 横浜市鶴見区市場西中町4-17

☎ 521-4521(代)

FAX. 504-5676

大東京火災海上保険株式会社代理店

代表取締役 森田洋司 (昭41・M卒)

- 建築・土木防水工事 -

渡辺商会

代表者 渡邊政信

37期機械科(専門学校)

横浜市磯子区森6丁目11番20号

TEL (045)761-3010(代) FAX (045)761-9570

「川崎」にて新年会開催



第22期卒 速藤 孝一

我が東京実業高校同窓会の新年会は例年どおり1月の最終土曜日、今年は1月28日川崎駅ビルのカメラホールにて行われました。この会場は窓からの夜景がとても良くまた多くの女性陣の参加でまず開始前から楽しい雰囲気がかんじました。御来賓の上野理事長、東京高校山本同窓会長、当校内藤親師会長、他の方々が新年を賀し御参加いただき、当会員は16期の青木さんから44期の人生真っ盛りの人々まで参加人員は総勢80余名で午後6時定刻どおり開始、記念撮影後司会者は天野副会長で黒田会長、御来賓各位、及び上野校長、村松元会長から新年のご祝辞を頂き、小島先生より職員紹介があり、青木先輩の御発声で乾杯が行われ親睦会は開かれました。

会場中央テーブルには和・洋・中華の料理がずらり、これがどれも旨い飲み物は飲み放題との事、各期毎にテーブルを囲むグループ、先輩後輩が仲良く混じった

テーブル、気の合う2、3名で楽しそうに語らう人々、和やかで華やか且つ賑やかな会場は時がたつほどに雰囲気は盛り上がり、得意の喉をきかせる人達、やがて粋な和服がよく似合う41期の滝口さんが袖をたくしあげ壇上でジャンケンゲームのリードをすれば全員が我こそはとそれに加わったもののルールがよくわからずばやく者、勝ち残って賞品を手に喜ぶ者等、そして楽しい時間は意外に早く過ぎるもので8時半には全員で校歌斉唱のあと本田副会長の閉会の辞により次の総会、あるいは秋の懇親旅行での再会を約しお開きとなりました。

幹事の皆さん有り難うございました。なお、この会場で行われた阪神大震災義援金のチャリティには10万5千円が募金され新聞社を通じて被害地に届けられました。この同窓会新年会は何方でも参加出来ます毎年1月下旬の土曜日です。次回はぜひ参加して楽しんでください。



会商

計画 発表

(20年門外) 林 健 樹 氏 へ

〒105-8501 東京都港区新橋1-1-1 森ビル
TEL: 03-3542-1111 FAX: 03-3542-1110

第13回懇親旅行記

(執筆) 三坂 謙高

卒業生 第41期卒

柴田 佐智子



平成7年9月2日(土)～3日(日)、静岡県稲取温泉「赤尾ホテル」へ恒例の一泊旅行が行われました。

有志40名(男子24名、女子16名)、今回初めて旅行担当という係りをおおせつかり5名の先輩のもと”楽しくしたい”をモットーに計画を立ててきました。

38期卒の田所氏も初めて、何をしても恐ろしくない初心者同志、計画し、いざ学校を9時出発、出発と同時に余るほどの酒、ジュース等、名幹事?の勧めではや小宴会、バスガイドさんの出る幕がないと嘆いておられるぐらい、田所氏が次々とゲーム、カラオケとにぎやか盛り、東名を走り、十国峠で昼食、サンドイッチだけの昼食で不満だったかも知れません。早々にホテルに着き、女性の水着持参で5つの露天風呂めぐり、6時半夕食、理事長、校長と挨拶をいただき大宴会が始まった。料理がすごい、船盛りが一席つつあり、食べなくてはと飲むのもひかえ(バスの中で沢山飲まされた。それが狙い?)皆、箸を動かしている。さあ余興の始まり、風船割ゲームでは皆童心に戻り、男女ペアを組んで息もぴったり、パンと割れると歓声が、校長先生組はなかなか割れず、注目の的になった。

今年還暦を迎えられる渡辺・箕輪・本間先輩には赤い襷をプレゼント、喜んでいただけたでしょうか?そして村松先輩の日本舞踊、黒田節に感激してしまいました。最後は輪になって盆踊りで宴は終わり、二次会はクラブ「姫」を貸し切りカラオケ、ダンス三昧、皆若い!そして各部屋にて又々宴会、気が付いてみると朝だった。ホテルを9時半出発、浄蓮の滝では雨が、見学はやめ菫山で昼食、大仁東洋酒造で工場見学、試飲、沼津さかなセンターで袋いっぱい土産を買い、帰路に、沼津近くからも出席してくれた友がいて、途中下車したりで7～8名の下車組と皆無事に行路を終わる事ができ担当者一同感謝しております。

今回の旅行はさぞうるさい、忙しい旅だったと思われる事でしょう。猪が14匹(41期)参加したせいもあるかも知れません。許して下さい。そしてこの会報を読まれた後輩諸君、若い人達が一度同窓会行事に参加してくれたらもっと、輪が広がり情報を吸収し合える気がします。皆さんの参加を待っています。



赤いくつの詩
銘菓よこはま
横濱西洋館

株式会社 **アルベリ**

昭23・C卒 山本徳太郎
 昭38・C卒 田所 豊

横浜市鶴見区豊岡帳7の14
 TEL (045)581-5441

スポーツのことなら!

しろかね
白銀スポーツ

白銀 正明

ユニホーム・スポーツ用具
 用品・施設・工事一般
 カップ・賞品・トロフィー

昭37・M卒

東京都大田区中央8-29-7
 TEL (03)3754-8679 FAX (03)3754-4845

水墨画に寄せて

予言哉 田菜

李職 第17期卒

高橋 武三 (虚峰)



現役を辞任してより、空虚な間が出来たので、何か趣味にちなんだ事をと、捜し求めてみましたが、所詮、零人間の私、零にいくら掛けても零、無から有は哲学的にも存在しない。悶々と2ヶ月程過ぎましたが、或時、大田区教育委員会主催、高齢者対象いろいろの教室が開始されましたので水墨画を希望してみました。

小学校時代、図工の成績頗る悪く、絵に対しての素質は無いものと(66才まで絵を画いた事なし)諦め、果して水墨画、どうかと半信半疑でした。謡曲・囲碁の方が良かったかなと、戸惑ってみました。以前書道を少し習い、書画一体とも云われましたので、筆墨に親しみがあったので選んでみたものの、この齢で新しい事を始めることは不安が一杯でしたが、3回位通い習いました。何とか出来そうなので、励んでみました。

水墨画は(墨画・墨絵とも云われています。)先駆者は雪舟の北画・渡辺華山の南画の流れですが、気候風土、其の他の事情に依り80%以上南画が多い様です。

古来、日本画の歴史と共に育ち、格調高い東洋絵画として、世界にも稀な芸術と評されて参りました。戦争の影響で一時期歩みが遅くなりまし

たが、地味ちに抜がり昭和36年、日本南画院が、日本全国組織として誕生、各県に支部が存在し京・大阪・東京に展示場を置き、会員数2300名以上となり年々増大の一途をたどり続けています。今回も全国各地より多数の応募がありました。権威ある審査を度重ね入選が決まり、各会場に展示されました。

一つの墨から無限に広がる幽玄な世界に魅せられ、老いてこの道に足を踏み入れまして足掛け5年、悠久の時の流れのほんのひとこま、一瞬の時の連なりの中で、拙いが絵画を手にする事が出来るのは幸である。あるが儘に、残された人生の灯火がつきるまで、きまままに、風の如くに。



第35回日本南画院展

深秋の長谷寺

高橋虚峰

横浜クリーニング

第35・C卒 木村 恭久

本店：鶴見区佃野町35-5 ☎584-5757
支店：鶴見区東寺尾6-13-5 ☎584-6293

-各メーカーエアコン取付工事-

湘南空調

代表 蒔苗 久繁

昭和41・M卒

綾瀬市綾瀬西5-10-5

TEL (0467)77-0798 FAX (0467)77-0798

第16期 方会 「アスター蒲田賓館に14名集まる」

平成7年6月19日(月)13時蒲田駅ビル西館7F銀座アスター蒲田賓館に集まる。梅雨のさなか雨つづきのなかのこの一日は、曇りとなり26度、14名と理事長、校長の両先生、計16名、両先生にはお多忙のところ毎回出席くださいませここで厚くお礼申し上げます。

われら14名は54年たっても気の変らぬ貴重な仲間だ、軍隊を解放され、国破れた、焼けた家に帰り元気な肉親の顔を見て安心した、なかには不幸な人もいようが。

やがて結婚する年令になるが個人差が出てくる。当時結婚する人は式場も無く、記念写真も無く勿論衣装も平服で形ばかりのものであった。昭和30年頃になって、やっと「米」持参の旅行ができるようになった。せいぜい熱海か伊東であった。昭和25年起的朝鮮戦争の特需景気のせいで案外早く良くなった訳だ。

食いものを得ることは大変で買出しの毎日で親は家族を守る然し子は飢えていた。

そのあとをわれわれが受けつぐことになった。食うことと職探しに夢中だった。この時点でまた個人差がでてくる、人生が決ってくるのだ。われわれが主役になる。

神武景気、オリンピック、岩戸景気、昭和元禄と土地



第16期 青木 茂夫

景気、しばらくつづいた。われわれも忙しかった。

上司の命令の服従に馴らされたわれわれは反抗するを知らず自分をこき使った。

世にいう会社人間となり、部下をもつようになって時代は変わったんだと実感する。バブルが終った、その頃定年となり浪人となった。

余談はさておき会は、両先生の挨拶、学校の近況等、大変有益な内容であった。乾杯と記念写真、撮影は場所のせいで、倉石カメラマンは苦勞した。各人は時間の具合で二分間の近況報告、前記の50年の苦闘を二分では語れない、承知しているが時間が無いので仕方がない。

内容はみなさんのと同じようなもんだ。71才を越したメンバーはマイペースでやっている。食べ方も少なく、酒量も減っている。お互いに淡々として無理をしない。

3時半になった。来年の場所と日取り時間を計って、みんなの承認を得た。平成8年6月15日(土)13時、鶴見駅から1分の「翠華楼」16時少し前、名残りを惜しんで再会を約して終った。

第17期同期会 「みのる会」開催する

私達、17期卒業の同期会の名称は「みのる会」と名付けています。東實の「實」をみのると読み、名付けたのです。卒業したのが昭和16年12月、太平洋戦争の為、繰り上げ卒業となり、卒業後暫くして皆さんが、軍隊に應召されたり、戦争の為、米軍の空襲で家を焼かれたりして同期生の住所、消息が全く分かりませんでした。昭和26年頃でしたか私が再び蒲田に住むようになってから、同級生住所を捜し求め、昔の住所録を頼りに何回かハガキを出して、消息を捜しました。確か昭和26年頃第一回の同期会を開催して、事後毎年欠かさず「みのる会」を2月に開催していましたが、近頃は皆、年を取ってきたので、寒い時を避け5月に開催しています。当時は上野熊蔵校長、初代同窓会会長、山田仙太郎先生や三留先生、宮野先生、鷹野先生、上野幸一校長などがお見え下さいましたが、皆さんご年齢のため、お迎えにこられ、ご世界なされ、私達が教えを受けた先生は、今では私達卒業



同窓会顧問 第17期 村松 演代

年度の、前後2年位の卒業生はご存じですが、配属将校であった三科六郎先生唯お一人になった。

卒業時156名、現在住所の判明している方72名、住所不明者46名、戦死及び物故者38名となっております、住所不明者の中には亡くなった方が多数居られる事と思えます。私達同級生は満70歳以上の方ばかりです。これからは毎年、年を追って彼岸に迎えられる方が増えると思えますが、最後まで「みのる会」は続けていきたいと思えます。この会は幹事の石渡瑛三さんのお骨折りで毎回、銀座サッポロ・ライオンで開催しています。今では年齢のせいか出席者は30名そこそこですが、毎回上野雅子理事長、上野毅校長、三科先生がご出席下され、和気藹々のうちに、先生より学校の近況をお伺いしたりして、子供の頃の在学中の思いにふけったりしています。

女子商業科の卒業生の会に招かれた日 (第41期同窓会報告)

上野熊蔵校長先生が女子商業科を併設するのでと、お声をかけていただいてから、約三十年近い間、楽しく勤めさせていただきました。私の一生の中で大半を占める歳月で、東実は有り難い御縁を結んでいただいたわけです。でも生徒にしてみれば、私とは三年間、長い人生の中のごく短いおつき合いなのです。それにこの時代は一クラス六十五名の、詰めて、雨の日はコートや傘の置場所、冬が近くなれば、ストーブをどこに置くかがいつも級会の問題となり、前列の机はピッタリと教壇についている始末で、おそらく個人的にゆっくりめんどうをみてさしあげるなどできなかったと思います。今日こうして皆さんにおめにかかって先ず、お詫びしなくてはならない気持ちです。今は裁縫などほとんど必要なく、針を運びながらお話したことの一つでも心に残るようなことがあるでしょうか。窮屈な教室の席にお下げの笑顔をならべて今現在の元気いっぱいの顔と置き重ね合わせて見ます。大声で仇名で呼び合う昔のままの友達同士、全くびったり重なって時の流れは消えてしまいます。この不思議な縁は一生続くことでしょう。順番に自己紹介がはじまります。病みと戦ってようやく今日出席できた人。朝から晩まで商売の忙しさに追われている働き者。

元教員 花房 悦子
(女子商業科担任)



ご主人の片腕となって仕事に打ち込んでいるたのもしい人。子供の受験に頭をいためている母親。お年寄りの世話に我が身を忘れてつくしている嫁の立場。趣味もプロの域にまでなりたいと努力する人。それぞれ女性の人生行路そのものです。皆さんの話し相手、歌手になれるかも知れない。先生とは先に生まれると書くのだから、私の躰が良いにつけ、悪いにつけ何かのお役に立つことがあれば幸い。終着駅近い私にもそんなことで一生の御縁として皆さんのお仲間に入れていただけるかもしれない。など考えながらお別れすることになりました。大丈夫だからと云っても幹事さんは駅まで送って下さいました。映画鑑賞で皆さんときたなつかしい通りです。今ではすっかり垢抜けた近代的な街に変わったところ名残り惜しく歩いて駅につきました。朝出る時は一期一会のもりでしたのに、皆さんの若さを戴いて、つい再会のお約束までしてしまいました。本当に楽しい一日をありがとうございました。終わりに悲しいことはこの会に永遠に笑顔のみせていただけなくなった大津美枝子さんのご冥福をお祈り申し上げます。

「脱サラと第2の人生」

第41期卒 堀口 朔



一記者からコンビニ業界に「脱サラ」して、早2年の歳月が流れようとしている。この間、「脱サラ」による家族に対する「代償」は余りにも大きいものがあったことは否めない。その一つが、親と子のふれあい、即ち、スキンシップの欠如である。24時間営業という仕事の性格上、一日のうち4分の3近くは店で過ごしているのである。決して自慢できる話ではないが……。このため、長男(19歳)、長女(15歳)との語らいの場が思うようにもてない。思春期の子を持つ父親として、胸が痛む毎日なのである。こうした反省の気持ちは一時たりとて忘れることは決してないが…。子を持つ親であって、親ではない、という不自然な親と子の関係は一日も早く断ち切り、この間に失った親子のふれあいの時間を取り戻し、10倍、20倍、30倍……もの意志疎面を図りたいと、切に願ってる。その一方で、記者時代は、夜討ち朝駆けは日常茶飯事一連の取材活動で我が家をあけるこ

とはサラ。こうした毎日のあけ暮れに、女房曰く「我が家は母子家庭」。この言葉が胸に突き刺さったことは事実。裏を返せば、「父親失格」というらく印を押されたわけである。女房のこの一言で、サラリーマン生活に見切りをつけコンビニの個人事業者として、第2の人生を歩むことになったわけである。平成5年1月のこと。

互いに店長、マネージャーとして必然的に店舗運営に当たらねばならなくなり、女房の存在感の大きさを、恥かしながら改めて認識した次第である。同時に、自分自身の非力さを悟ったのだ。1つの事業目的の実現に向かって、「2人3脚」で地道ながらも歩み続けているが、現在では長男も全面的に協力し、「3人4脚」で地域1番店を目指している。長男の事業参画で、少しずつではあるが、親と子のスキンシップの充実が図られてきている。1年後には長女も高校生。そのときこそ、親子4人で趣味や旅行、仕事等で共通の認識を持つことができるであろうし、喜びや悲しみを分かちあえることができるものと確認している。

<注>この記事は前号記載予定のため、内容によってはズレがあるのでご承知おき下さい。

一年間の抱負

11月22日の生徒会役員選挙により、平成8年度生徒会会長に選ばれました機械科2年生の幾度恭暢です。

私は昨年生徒会副会長として、様々なことに積極的に取り組み、時には先輩方のアドバイスを聞き、生徒会役員と共に一年間頑張ってきました。現在行われている行事全てに歴代の生徒会役員がつくりあげて来た伝統が生きてきているのだということが一番強く感じました。

そして私は今年生徒会々長としての自覚を持って、歴代の先輩方の努力を恥かしめることのないようにしたいと思います。更にその伝統を生かしつつ、今まで以上のものを他の生徒会役員と共に協力し合い作りあげていきたいと思っています。思わぬ失敗をしてしまうこともあるかも知れませんが、しかし失敗をそのままにせず、自分自身のプラスになるようにしていきたいと思っています。

今年の行事の中で、最も注目を集めたとと言えるのは、体育祭ではないでしょうか。体育祭は毎年、大井競技場で行われていますが、今年は盛り上がり大成功に終わ

生徒会会長 幾度 恭暢



りました。学校側からも体育祭改善について検討するという話がありました。生徒会としてもよりよい体育祭ということ考えた時、日程や内容など根本的に改善していきたいということで意見が一致しました。今後は自分も会長として体育祭の改善に全力を注ぎたいと思います。

これは一つの挑戦だと私は思うのです。なでかと思う人がいるかもしれませんが、今までの体育祭とは、全く違う形で行う訳です。その為、生徒会役員にかかる期待というのは、今まで以上のものだと思います。その期待を裏切らない為にも、一生懸命頑張っていきたいと思っています。このように、各行事の成功を目指す為には、先生、生徒会役員をはじめとする生徒全員、そして今年卒業される三年生や同窓会の皆さん、全ての人々の協力なしでは何も出来ません。同窓会の皆様の暖かいご支援、ご声援の程、ぜひよろしく願いいたします。

平成7年度新同窓会幹事紹介

平成7年度卒業の科組別同窓会新幹事を、ご紹介いたします。(事務局・米田)

(担任)

(新幹事)

- | | | | |
|----|---------|-------|-------------|
| MA | 栗原 先生 | | 上代 健一・須藤 貴彦 |
| MB | 藤田 先生 | | 山田 省吾・吉田 紳一 |
| MC | 村山 先生 | | 佐藤 武史・神 智行 |
| MD | 浅賀 先生 | | 川森 拓朗・佐藤 圭 |
| EA | 鈴木(光)先生 | | 河原 誠・佐藤 哲治 |
| EB | 長谷川 先生 | | 大島 隆一・大野 亮 |
| CA | 須貝 先生 | | 千賀 宣彦・竹内 正人 |
| CB | 小林 先生 | | 安藤 貴志・宮坂 明 |
| CC | 関根(勝)先生 | | 及川進太郎・藤田 大輔 |
| CD | 西沢 先生 | | 藤野 勝昭・松尾 洋一 |
| OA | 毛塚 先生 | | 加藤 喬央・竹内 功治 |
| OB | 関根(章)先生 | | 岡田 聖臣・本山 義和 |

フォトクイズ(第6号)正解

- A-6 B-9 C-2 D-10 E-1 F-8
G-3 H-4 I-5 J-7

多数の応募ありがとうございました。正解者には、本校のテレカをお送り致しました。尚、このコーナーは、

クロダエンジニアリング株式会社

機械・プラント・電子機器設計
CADソフト及びCAD入力業務全般

〒230 横浜市鶴見区平安町2-3-3
TEL. 045-502-0606
FAX. 045-502-5590

代表取締役社長 黒田 芳彦 (昭39卒)

負荷トルク計

軽いトルク
MODEL PT-1920/30



- 最小トルクフルスケール 10gcm(0.81gcm分線)
- 10gcm-100gcm(5.79gcm分線)のセンサー
- トルクリミッター内蔵
- 記録・トルク測定可能、アナログ出力
- 記録・トルク内蔵、バック・ゼロセンサー
- あらゆる姿勢で測定可能、微小分線
- パソコン処理でデータ保存可能、オプション装置

ダイナミックトルク計(回転体のトルク)
MODEL PT-2300



- 50gcm-200gcm(5.79gcm分線)のセンサー
 - 回転数 4,000-30,000rpm フルスケール
 - パソコン処理でデータ保存可能
- 電源用プレーヤー(バーマトルク)
- 1gcm-10gcm(5.79gcm分線) 1,000rpm
 - 1.2gcm-40gcm(5.79gcm分線) 1,000rpm

株式会社 プロテック 〒228 神奈川県横浜市鶴見区8丁目4番地3号 代表取締役 天野 昇 (昭36卒)
TEL. 0427-41-7690 FAX. 0427-49-2145

紙面の都合上、第6号で休止させていただきます。
ご協力ありがとうございました。(編集委員会)

事務局だより

一人でも多くの卒業生に、見易く、親しまれる会報をモットーとして、同窓会唯一の機関誌「東実同窓会報」も今回で第7号になります。年1回発行のこの機関誌を通して卒業生同志、(先輩・同期・後輩)、卒業生と学校との仲を保ちより大きく東実同窓会の環を広げる手助けになれば、幸いに存じます。

この欄では、標題の通り、事務的な面について、お知らせ、お願い等を記載致しますので連絡をとり合っ、ご協力下さるようお願いいたします。

★ お知らせとご報告 ★

当同窓会では次の三大大行事を毎年欠かさずことなく行なっており、多数参加され親睦を重ねております。どなたでも参加できますのでお気軽に、お友達を誘いご連絡下さい。案内状を発送します。

1. 定期総会(昨年)

日時:平成7年6月4日(日) 午後2時30分
会場:母校小ホール 総会終了後同所にて懇親会を行います。会費は¥5,000-

2. 懇親旅行(昨年)

日時:平成7年9月2日(土)~3日(日)
行先:稲取-赤尾ホテル
費用:¥30,000-(往復バス代・車中飲物・昼食・夕食・宴会費・ゲーム賞品代・宿泊含む)

3. 有志新年会(昨年)

日時:平成7年1月27日(土) 午後6時
会場:カメラアール(川崎駅ビル)
会費:¥10,000-

校行事では次の二件があります。

1. 体育祭:平成7年9月30日(土) (昨年)

会場は大井競技場 (大森よりバス)

2. 東実祭:平成7年11月5日(日)毎年第1日曜日

会場は母校「同窓会の部屋」も設けます。

以上の行事(日程)は昨年ですが、毎年同じ頃に、行う予定ですので参加希望者は、予定して下さい。

★ ご連絡とお願い ★

● 終身会費と納入について

本会の活動をより活発にする為にも終身会費の納入にご協力下さい。納入された方には、名簿に登録し、この同窓会報を送付致します。納入方法は下記の通り。

全国郵便局より口座:00160-0-0056316東京実業高校・

同窓会宛 金額:¥10,000-(但し平成2年以降の卒業生は卒業時に、卒業記念費の中に含まれておりますので納入されなくても結構です。

● 会員名簿について

平成4年版の会員名簿が出来ております。

ご希望の方は、事務局に、ご連絡下さい。

尚次回名簿の発行は平成9年度の予定になっております。本年から住所確認作業を始めますので前回不明者、最近転居された方は、事務局にご連絡下さい。

● 同窓会報について

この会報は卒業生の唯一の機関誌です。年1回の発行です。卒業生誰でも、何時でも投稿出来ます。

クラス会の呼掛け、報告、近況等営業広告等大意にご利用下さい。

● その他

事務局への連絡は 電話 3732-4481(代)

FAX 3732-4456です。

皆様方からのご意見、ご連絡をお待ちしています。

★ ご注意 ★

最近、同窓会と称して又まぎらわしい文章(電話)で本人の留守中、自宅に「只今同窓会名簿を作成中です。卒業生の住所・勤務先……電話等をお聞かせ下さい。」とか「周年事業で新聞に広告を掲載します。ご協力を」と金銭を取っている業者が居る旨の苦情の電話が事務局に頻繁に入ってきます。これ等は一切事務局とは関係ありません。不審に思われる時は、その場で答えず、後日本人に聞いてから……と相手の電話番号と名前を聞いて、事務局にご連絡下さい。事務局でも大変迷惑しております。お互いに連絡を取り合っ、充分気を付けましょう。

(事務局・米田)

編集後記

前号(第6号)より、経験豊かな22期の井上先輩から全く素人の私が委員長を引き継いで、この会報を発行させて頂いております。委員一同、同窓会の活動状況、母校の近況等なるべく知って頂くよう努力しております。

編集委員長 第42期 白田 佳彦

副会長 第34期 本田位公子 事務局 米田 仁昌

編集委員 第22期 遠藤 孝一 第41期 滝口 房枝

第35期 川名 重士 第39期 多田 和人